

第5章 教員採用選考試験“再チャレンジ”への道

第1節 学び続ける教師 — 1人勉強では成功しない—

1 “再チャレンジ”対策

教員採用選考試験対策の根幹は、即戦力としての人間性、専門性の育成にあると言われています。このことは、例えば、令和3年度全国学力・学習状況調査 ([21summary.pdf \(nier.go.jp\)](#))

)の結果をどのように学校教育に生かしていくのか、生かすための実践力が問われます。つまり、大学4年間で学んできた教育観を見つめなおす機会になります。学校現場に入ることにより、児童生徒の実態を踏まえた新たな「即戦力(実践的な指導力)」が身につけていきます。そのためには、学校現場で、授業づくり・学級づくり・チーム学校づくりの三本柱を新たに積み上げるのではなく、創り直していくという意味での“再チャレンジ”になります。

“再チャレンジ”するためには、どのように準備すればよいのでしょうか。本学の学生も、7、8月の結果を踏まえて、学校現場に臨時任用教員として、講師として赴任する者、大学院や通信教育などで学び直して教職の資格を新たに取得する者など、再挑戦し成功している場面に出会うことが多くあります。

“再チャレンジ”のために、まず、受験自治体の、例えば、[茨城県教員ハンドブック「教員ハンドブック」\(令和3年度版\) \(pref.ibaraki.jp\)](#)、及び富山県教育委員会

[令和3年度 教員研修ハンドブック\(冊子\) | 富山県総合教育センター \(tym.ed.jp\)](#)

を参考に、3月までと4月以降の2つの「学習計画」を立案することを勧めます。次に、教材研究の視点から、受験自治体の、例えば、[北海道小中学校教育課程編成の手引き](#)、[埼玉県中学校教育課程指導・評価資料](#)として、

[R03 小・中学校教育課程編成の手引 - 教育庁学校教育局義務教育課 \(hokkaido.lg.jp\)](#)

[埼玉県中学校教育課程指導・評価資料\(令和3年3月\) - 0.埼玉県教育委員会 \(saitama.lg.jp\)](#) を参考に、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善、カリキュラムマネジメントについて、学校現場の視点から学び直してください。さらに、学校現場での学びを最大限活用して、よりよい授業づくりを体験し、一般教養・教職教養・専門教養の学びを実践的な体験を通して、攻略してください。

道徳科授業づくりには、かけがえのない生命を大切にする教育・自殺予防教育として、

<https://www.mbs.jp/4chantv/news/kodawari/article/2022/02/087733.shtml> を教材として活用してください。模擬授業や個人面接・集団討論、論作文など「具体的に述べてください」という場面に活用できるようになります。

課題:あなたが目標とする受験自治体の「教員ハンドブック」及び「教育課程編成の手引き」について、整理してください。

○教員ハンドブック

○教育課程編成の手引き

2 “再チャレンジ”のための学習計画

臨時的任用教員や非常勤講師などとして赴任する学生の皆さん、右の表を見てください。3月までに100%仕上げていくために整理したノートをもとに学習計画を立案し最終仕上げを行いましょ。

4月からは両立です。教職支援室に相談してください。学校現場での学びが1次・2次教採対策です。両立を図りましょ。



月別計画 教科・学級指導事務	筆記 一般：教職：専門 = 4 : 2 : 4	論作（策）文 対策 （引出しづくり）	個人面接・集団 面接・集団討論
1月 期末試験 高校受験追い込み —苦手な子ども—	上旬・算数と高校数学の総復習 中旬～下旬 ・神奈川県模試分析 （中学3年間復習）・新潟過去問分析	テーマ別対策10 〇〇先生に相談 数学科指導法確認	個人面接 場面指導（実演、質疑応答）
2月 2月15日 中学・高校入試 2月17日から	上旬・（線形代数の復習）・授業づくり （正・負の数、式の計算2、3年） 下旬・教職教養1周目終わらせる ・一般教養1周目終わらせる	〇〇先生⑧～⑩と 県別対策 模擬テストに挑戦	メモリーツリー を作成する 集団討論
3月2日教習所卒検 20日大学卒業式	上旬 ・一般教養苦手つぶし勉強方法 下旬 ・教職教養2周目終わらせる	茨城論文対策	集団面接 模擬授業
4月1日着任 ・教採出願準備	過去問（月2回やれたらいいくらい） 模擬テストに挑戦	東京過去問に挑戦 模擬テストに挑戦	教師塾で集団と 個人面接対策
5月	過去問を反復、模擬テストに挑戦	模擬テストに挑戦	教師塾
6月27日 茨城1次試験 教職教養+専門教養	過去問を反復 模擬テストに挑戦	栃木過去問 模擬テストに挑戦	教師塾
7月4日 一般教養+教職教養+専門教養 1学期末試験	過去問を反復 模擬テストに挑戦	群馬過去問 埼玉過去問	教師塾
8月 夏季 論文+集団討論+個人面接 8月19日～22日 茨城二次試験	過去問を反復	茨城過去問	教師塾
9月 合格発表	結果を踏まえて、進路の再確認		
10月 2学期中間試験	3月末までの100%達成計画	3月末100%達成計画	3月末100%達成計画
11月	過去問・模擬テ確認3周目	過去問・模擬テ確認	過去問・模擬テ確認
12月 2学期末試験	過去問・模擬テ確認4周目	過去問・模擬テ確認	過去問・模擬テ確認
1月	総則編など確認5周目	総則編など確認	総則編など確認
2月 3学期末試験	4月赴任先に目途をつける。	基礎基本の確認	基礎基本の確認
3月	100%を目指す。新年度対策立案	100%目指す。	100%目指す。

教員採用選考試験対策上の留意点は、下記のとおりです。

- (1) 模擬テストを日程に組み込み、結果を分析し修正する力を養おう。
- (2) 臨時任用教員としての日々の教育実践が1・2次教採対策そのものです。安心してください。
- (3) 一人での勉強は限界があるので、管理職・同僚などに相談し意欲を高めよう。
- (4) 健康と笑顔で児童生徒に接することができるよう、日々睡眠と気分転換を第一優先に。
- (5) 挑戦した成果を分析し、修正してください。「学び続ける教師」「信頼される教師」としての資質・能力をアップしよう。

第2節 教員採用選考試験終了後の“再チャレンジ”対策

1 教員採用選考試験は一人ではできない

大学4年生が教員採用選考試験に合格できる割合は、小学校で3～4割、中高で2割程度と言われています。決して容易ではなく、数年間の長期戦になることも覚悟してください。

選考試験終了後に行うことについて、以下のとおり、

- ・筆記試験の自己採点と弱点に関する自己分析を行う。
- ・論作文、面接試験の復元を行う。
- ・教職担当の先生に報告し、指導助言を受ける。
- ・受験で使った教材・資料を整理（ファイリング）、保存する。
- ・実習校やボランティアでお世話になった先生に報告する。

残念ながら合格できなかった人は、必ずその原因を自己分析してください。その原因が、筆記試験であるならば、9月から3月までの学習計画を立案し、課題解決の手立て、一般教養・教職教養・専門教養それぞれの学習計画に沿って着手し100%まで仕上げ、4月より赴任することを勧めます。さらに、論作文・面接・実技が課題である場合は、筆記試験と並行しながら学習計画を踏まえて取り組みます。しかし、一人での取り組みは自己流の積み重ねになります。必ず、教職支援室などを活用しながら、自分自身の進捗状況を分析し学習計画を修正する勇気を持って取り組んでください。

『月刊教員養成セミナー2015年9月号』帝京大学教職センター長 和田孝 P60～63 より、引用

2 “再チャレンジ”の心構え

“再チャレンジ”する人の進路は、最も多いのは公立・私立の臨時的任用教員もしくは非常勤講師になるケースです。また、通信教育・科目等履修制度・聴講生制度を利用した複数免許取得を目標にする人、大学院進学により専修取得や複数免許取得をめざす人も多く多様化している状況にあります。

教職支援室は、いつでもどこでも卒業生への支援・サポートを行います。相談してください。

臨時的任用教員と非常勤講師の大まかな違いは下記のとおりです。参考にしてください。

	任用期間	勤務	待遇	担任	部活動顧問
臨時的任用教員	採用年度内	正規と同じ	正規と同じ（賞与あり）	あり	あり
非常勤講師	採用年度内	授業時間のみ	時間給	なし	なし

自治体によりますが、ここ数年、非正規採用教員は、代替教員、産休・育休等を取得する教員、特に小学校が増えているとの報告があります。

学校現場では、同僚・先輩・管理職の先生方、生徒・保護者に接しての学びなど、あなたの周りの環境すべてが教員採用試験選考対策につながります。報告・連絡・相談しながらの“再チャレンジ”が成功への近道です。一人での勉強に陥らないよう努めましょう。

3 教職大学院

自治体の中には、教職大学院への進学者に特別選考枠（1次試験免除の優遇措置）を設けている場合もあります。加えて、専修免許状の取得者を積極的に採用する動きもあります。教職大学院進学のメリットは多くあります。また、他校種の免許取得が可能であることから、小中一貫校での採用など大きなメリットになります。

教職大学院以外の大学院へ進学の場合でも、複数免許取得や専修免許状の取得は可能でありメリットはあります。

4 私学教員

私学教員に採用されるまでの流れは、都道府県私学協会や私立学校の教員採用方針によって異なります。東京都の場合、毎年8月に「私学適性検査」が行われ、そのリストが各私立学校に配付され面接選考され採用されるという手順になりますが、多くは私学独自の「建学の精神」「教育理念」に基づく教育経営方針を理解しその学校に骨をうずめる覚悟がなければ合格は難しいものとなります。また、私学では一般公募も行っています。ホームページや大学の求人情報をチェックしておくことも重要ポイントになります。一方、私学の非正規での非常勤講師採用と公立学校の教員採用試験選考を両立しようとする場合もあります。授業を実際に体験することになり大きなメリットがありますが、私学ならではの建学の精神を理解することも必要になりますので留意してください。

私の再挑戦プラン

学部

学科

氏名

私の再挑戦プラン	学部	学科	氏名